

令和6年度第3回

小金井市環境審議会会議録

## 令和6年度第3回小金井市環境審議会会議録

- 1 開催日 令和6年9月17日（火）
- 2 時間 午前10時00分から午前11時52分まで
- 3 場所 前原暫定集会施設A会議室
- 4 議事 (1) 令和7年度事務スケジュールについて  
(2) （仮称）小金井市気候市民会議について  
(3) 令和5年度環境報告書（案）について  
(4) その他
- 5 報告事項 (1) 各種報告書について  
(2) 次回審議会日程について  
(3) その他
- 6 出席者 (1) 審議会委員  
会 長 池上 貴志  
副会長 椿 真智子  
委 員 高田 雅之、土屋 健  
高木 聡、和田 直人  
中里 成子、田頭 祐子  
橋本 修、近藤 豊  
(2) 事務局員  
環境部長 柿崎 健一  
環境係長 高野 修平  
環境係専任主査 荻原 博  
環境係主事 石堂 裕賀  
環境係 阪本 晴子
- 7 傍聴者 1名

## 令和6年度第3回小金井市環境審議会会議録

池上会長 令和6年度第3回小金井市環境審議会を始めたいと思います。  
まずは、事務局のほうから事務連絡と本日の配付資料等の確認をお願いいたします。

高野係長 本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。  
最初に事務連絡として、御発言の際の注意事項についてです。マスクを着用されている場合、会議録作成の際にICレコーダーの録音内容が非常に聞きづらくなってしまいます。つきましては、質疑応答等、御発言の際は御自身のお名前を先におっしゃった上での御発言に御協力をお願いいたします。また、できる限り短時間で有意義な審議会となるよう努めてまいりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

続いて、配付資料の確認についてです。本日は、資料1から5と、参考資料としまして令和5年度各種報告書を机上に配付してございます。資料4の環境保全実施計画につきましては、資料5の環境報告書（案）の中に内包されている関係から、メールでもお伝えしておりますとおりのみデータのみの配付とさせていただいております。資料5は環境報告書の令和5年度版ということで作成しております。こちらについては審議会の中で全て意見聴取するのは難しいというところと、皆様、御自宅に持って帰って中を見たほうが時間が取れるとも思いますので、参考資料として意見等記入様式もお配りしております。皆様、お手元に過不足等ございませんでしょうか。

また、前回の会議録につきまして、紙資源削減の観点等から電子データのみ提供とさせていただいております。ホームページでも公開させていただきますので、再度御確認いただければと思います。

事務局のほうからは以上です。

池上会長 ありがとうございます。

それでは、本日の議題に入りたいと思います。

まず、(1)の令和7年度事務スケジュールについて、事務局のほうから説明をお願いいたします。

高野係長

まず、資料1、令和7年度スケジュール（案）の概要について説明させていただきます。

こちらは令和7年度のスケジュール（案）になります。まず、左上のナンバーを振っているところからになりますが、本審議会について、ナンバー1、環境審議会ということで記載しております。環境審議会につきましては通常の開催に加えて第3次環境基本計画が5年間というところで来年度が中間の年度に当たるため、市民意識調査の内容確認、アンケート調査を実施したいと考えております。また、この環境審議会でも報告させていただいて審議していただいておりますが、気候市民会議を令和7年度に実施したいため、こちらについても内容を確認していただきたいこと、また、計画の中間見直し審議というものをしていただきたいと考えておりますので、横軸を見ていただきますと、第1回から第6回までという形で記載させていただいております。例年は4回、審議会を開催しているところなんですけれども、来年度は概ね2回程度増やして開催したいと考えております。

おおむねのスケジュールについては、また別途、資料2のほうで説明させていただきますが、それ以外にも来年度は、ナンバー2とナンバー3を御確認いただきたいのですが、気候市民会議を開催したいと考えておりますので、そちらの運営であったり、市民意識調査アンケートの内容を確認していただいたり、計画の中間見直し支援をしていただくための委託事業者を来年度決める予定です。今後、プロポーザルを実施して事業者を決定し、気候市民会議の運営や、環境審議会の運営支援をしていただきたいと考えております。

ナンバー3が気候市民会議になります。気候市民会議については後ほど資料3のほうで、今回の無作為抽出の案内については御報告させていただきます。気候市民会議については、令和6年度に環境フォーラムの中でプレ気候市民会議というものを実施したいと考えてございます。今年度1回、8月22日に気候市民会議の無作為抽出を実施したところではあるんですけれども、それプラス、来年度もう一度、気候市民会議の無作為抽出の案内をして、5月ぐらいに参加者を決定し、6月から8月ぐらいまでかけて、全3回の気候市民会議を想定しております。

気候市民会議につきましては、来年度は11月中旬に実施予定の環境フォーラムで気候市民会議の報告をさせていただきたいと考えています。また、年度末に環境フォーラムとは別に、気候市民会議の報告会を実施したいと考えているところです。

ナンバー4、市民意識調査アンケートについてです。環境基本計画で実施している市民意識調査、こちらは5年に1度を目途に把握と環境基本計画に記載がございますので、アンケート内容は、同じもののアンケートや、追加するアンケート等を精査させていただいて、取りまとめたいと考えております。

ナンバー5が、庁内での環境基本計画の推進本部になるんですけれども、年に4回程度、内部での報告をしたいと考えております。

そのほか、ナンバー6、市民団体等の調整、こちらは環境市民会議等を考えているところなんですけれども、気候市民会議のスケジュール感や、気候市民会議の報告、計画の中間見直し等について、市民団体の皆様にも報告しながら進めていきたいと考えております。

ナンバー7、市議会への報告になるんですけれども、これは定例会ごとに開催の報告であったり中間報告であったり、そのほか、計画の中間見直し案につきましてはパブリックコメントをしたいと思っておりますので、そちらのスケジュールを記載してございます。

こちらがスケジュールの大まかな流れになります。詳しいスケジュールにつきましては、次回の環境審議会等で報告させていただければと思っております。

続きまして、資料2を御覧ください。こちらは、第3次環境基本計画と第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画の中間見直しについて記載したものになってございます。

資料2の2ページを御覧ください。前々回、令和6年度第1回の環境審議会でお諮りした資料になってございます。第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画の温室効果ガスの削減目標について、国や東京都と本市の温室効果ガス削減目標についてを表にしてまとめたものになってございます。

上から見ますと、国の計画では温室効果ガス削減目標が2013年度比で46%削減、東京都が2000年度比で50%削減、それに対

して本市が2013年度比で26%削減という数字になってございます。こちらは繰り返しになるんですけれども、改定前の国の地球温暖化対策計画（平成28年度）の削減目標値26%というものを基に、検討委員会の中で計画を組ませていただきまして改定したため、国や東京都と比較して目標数値自体は低くなっているということは、こちらの審議会でも何度かお諮りさせていただいたところでございます。

続きまして、3ページを御覧ください。こちら本年度第1回の環境審議会にお諮りした内容と同じ内容になるんですが、下に書いてございますとおり、2025年度、来年度になるんですけれども、第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画が10年計画の中間年度に当たります。中間年度に当たる令和7年度に温室効果ガス削減目標の見直し等を含む中間見直し等を行うか、本審議会でお諮りいただくということで、何度か御審議いただいていたところです。

審議会でお諮りいただいた意見としましては、26%削減目標を達成すること自体が容易ではないということと、数字だけにとらわれることなく、市の長所である環境教育の充実を図ることであったり、他市に遅れることにならないように見直しを検討することなど、様々な御意見をいただいております。

続いて、4ページを御覧ください。こちらは第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画の見直しについて、まず、予算を伴う改定をするのか、予算を伴わない、数値目標と評価方法等の改定のみにとどめるのかということで御審議をしていただきました。

まず、左側に書いてございます予算を伴う改定、数字を全部、評価し直して全面改定を行うという場合は1,000万円超のコストがかかるということと、改定検討委員会の設置、少なくとも3回から5回程度設置しなければいけないことであったり、都度、環境審議会でも素案の検討と報告をしなければいけないということがございますので、こちらにつきましては予算を伴わない改定という形で、右側に書いてございますが、委員会は設置せず、気候市民会議であったり本環境審議会でも素案の検討、報告をしたいということでお諮りさせていただきまして、こちらについては数字を一つ一つ拾わない形での改定をしたいということで、本審議会のほうでも御審議いただき、御了承いただい

たところでございます。

施策の展開につきましては、削減目標達成のための施策強化、市民参加については環境フォーラム等での報告、周知については市報、SNS等での報告ということを検討していますと報告させていただきました。

そちらの検討、審議していただいた内容を踏まえてになるんですけども、5ページを御覧ください。こちらは第2次小金井市地球温暖化対策地域推進計画見直しの方向性についてです。審議していただいたとおり、全面改定を行わないものの、ゼロカーボンシティ実現に向けたロードマップというものを作成して、こちらを第2次地球温暖化対策地域推進計画の後期計画のようなものとしたと考えております。あわせまして、第3次環境基本計画の基本目標7にも、温室効果ガス排出削減目標数値という記載がございますので、この目標についても整理したいと考えてございます。

温室効果ガス削減目標の数値についてなんですけれども、こちらの審議会でも何度か御審議していただいているところではあるんですが、26%の削減自体がなかなか難しい数字ではあるんですけども、中期的な市の目標数値（2030年）については、国に準じて設定、今が国が46%で、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるという数字になっているのですが、国に準じた設定をしたいと考えております。

国の計画に合わせて46%と確定してしまいますと、国のほうでも計画の策定自体を変えてくるという可能性がございますので、せっかく国に合わせて数値を変更したのにもかかわらず、また国がさらに高みを目指して数値を変更してしまうと、また一つ遅れた目標数値となってしまいますので、あくまで国に準じて、今は46%、さらに50%の高みに向けてというところをしたいと考えてございます。

また、長期的には、これは市も国も都も全部一緒なんですけれども、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指すというところには変わりはなく、国や東京都、市が出しています気候非常事態宣言との整合性を図りたいと考えております。

ゼロカーボンシティに向けたロードマップがどういうものかといいますと、6ページに書いているのがイメージになります。一枚絵のよ

うな形で、今までどういった事業を実施してきたのか、これからどういった事業を実施したいのかというのが、こちらは西東京市のゼロカーボンシティガイドラインから引っ張ってきているものなんですけれども、1枚の絵のような形でお示しできるものがあれば、市民の方にとっても見やすいものになるのではないかと考えて、こういったものを作成したいと考えております。

また、概要版というものについて、7ページを御覧ください。こちらは長野県の安曇野市を例として挙げているんですけれども、概要版につきましても、何か絵のようなものを使い、できる限り市民に分かりやすいもので、冊子自体もページ数が少ない冊子を作成したいと考えています。あまりページ数が多くならないような形で、読んで、自分にとって何ができるかというところを考えていただけるようなものにしたいと考えております。あくまで、こちらの概要版については案でございますので、安曇野市やいろいろな市を参考にしながら作成したいと考えております。

次は8ページです。こちらは先ほど説明しました第3次環境基本計画の基本目標の目標整理についてです。第3次環境基本計画についても26%の削減というところで記載がございますので、こちらについては整合性を図りたいと考えているところです。

9ページを御覧ください。こちらは計画の見直しの手法についてです。先ほど、資料1のときに説明させていただきましたが、案として来年度、6月から8月にかけて気候市民会議を開催したいとお示しさせていただきました。気候市民会議で計画のあり方や、計画の前半5年間で終了して見直しの時期に当たりますので、後期の5年間に向けて意見、目指すべきまちの姿、ビジョンというものをイラストなどをふんだんに使って提言をいただいたり取組内容等を市民目線等でピックアップしていただきたいと考えてございます。

気候市民会議の意見を環境審議会で、案という形での取りまとめをしたいと考えてございます。環境審議会では、気候市民会議で出された意見の優先順位や、市が今、実施している取組内容の精査、新規で実施したほうがいいのか、重点施策として実施しているものをさらに加速化させるべきか、そのまま引き続き継続したほうがいいのか等に



についても資料をお示しさせていただきながら進めたいと考えております。

続いて、10ページを御覧ください。こちらは第3次の基本計画における市民意識調査のアンケートの実施についてです。第3次環境基本計画におきましては、5年に1回を目途に把握している指標について、市民意識調査アンケートを実施したいと考えてございます。一例なんですけれども、資料に書いてございます、「みどりの豊かさ」、こちらは5年に1回把握しますということで、右側のところで、基本目標3の中にごございます、「生き物との親しみやすさに関する満足度」の調査を実施したり、そういったものが何項目かございますので、5年前と比べて、現在どのような状態になっているかというところを調査して、結果を概要版としてまとめたいと考えてございます。

次、11ページを御覧ください。資料1でも説明しました環境審議会の開催（案）になります。こちらは先ほど冒頭でお話ししたとおり、例年4回実施している審議会を、案として6回程度実施したいと考えてございます。こちらはこれから予算要求という形になるので若干前後になるかとは思いますが、5月の中旬から3月の中旬ぐらいまでと考えてございまして、ここ数年間の審議会と比べて回数を増やしてという形になってしまいますので、皆様には少しお手間をかけてしまうかなというところではあるんですけれども、御協力いただければと考えてございます。

次の第4回審議会の頃にもう少し詳しいスケジュールをお示しできればと考えてございます。

事務局のほうからは以上です。

池上会長

ありがとうございます。

それでは、ただいまの御説明に関して質問、コメント等ありましたらよろしくお願いたします。和田委員、お願いします。

和田委員

地球温暖化対策の推進計画の見直しの方向性というところで、5ページ目ですか。国の2030年の46%削減といったところを念頭に置いてということでありましたけれども、今年、第7次のエネルギー基本計画のほうで見直しが入る予定になっていますので、ここで多分、35年の削減目標とか、御存じのとおりだと思いたうんですけれども、出

てくるかと思えます。ですので、ちょっと見直しのスケジュール的に、多分、国も見直しを並行して進めていますので、35年目標といったところも見据えながらやっていますというようなニュアンスを入れるといいのかなと思いました。ありがとうございます。

高野係長 分かりました。ありがとうございます。

池上会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。椿委員、お願いします。

椿副会長 同じ資料25ページ目のスライド、上の方の、今、御説明いただいたロードマップ、概要版ですか、視覚的にも分かりやすく、一般の方も興味関心をもっていただける内容を目指すのは良いことと思えます。これは今年度中に作成するのでしょうか。内容について、この審議会の場で私たちも見せていただいて検証する機会があるのかどうか。最後に、この作成した概要版はどのように配付し使われる想定なのか。せっかく作られるので、多くの方に見ていただきたいと思い、イベントで配付するとか、学校の特に小中学校の地域学習に活用いただくとか、いろいろ考えられるかと思えます。、お考えがあったら教えてください。

以上です。

高野係長 御意見ありがとうございます。ロードマップにつきましては、来年度作成予定となりますので、本審議会でお諮りしながら、皆様の御意見をいただきながら作成したいと考えております。

こちらはこういったところで配付するのかという御質問についてです。こちらはまだ明確には決まっていますけれども、部数等が今のところ500部程度と考えておりました、紙面ではイベント等で配れるような形と、データではLINE、X等でもかなり情報は発信しているので、そういったところで情報発信できればと考えております。

小学生や中学生に向けても、できる限り分かりやすく見てもらいたいというところもありますので、冊子を全部配るとなると6,000部、7,000部必要になってくるので難しいかなと思えます。最近はQRコードで見てもらって、そこにアクセスしてもらって見ていただくというやり方も実施しているので、そういったやり方で、小学生、中学

生には必ず見てもらいたいなというところもあるので、現物を渡すのは難しいとは思いますが、そういったことは検討しております。

以上です。

樫副会長           ありがとうございます。学校現場での活用については、市からの働きかけも含めて御検討いただければと思います。ありがとうございます。

池上会長           ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。田頭委員、お願いします。

田頭委員           説明いただいたスケジュールと計画見直しについてです。まず、スケジュールのところにあった、今度、公募型プロポーザルで環境審議会でも、気候市民会議の運営支援ということでプロポーザルで業者を、コンサルなんですかね、募集していく、そして運営支援に入っていくということなんです。この審議会にも運営支援が入るということは、このロードマップ、概要版をつくるに当たっての運営支援をしていただくということなのかなと御説明を聞いて思いました。具体的に、環境審議会でコンサルの方に入っていたいただいた経験がないので、どんな感じで支援をしていただく、どういう部分に支援をしていただくということを想定しておられるのか、毎回入ってこられるのかとか、その辺のことをちょっとお聞きしておきたいのが1つです。

それと、この概要版作成については、ロードマップという形で分かりやすい、視覚的にも市民に親しみが感じられて分かりやすいものをつくっていくという方向性はすごくいいなと思っています。ただ、内容的には数字を追っていくのではなくてということもあったので、その辺が、温室効果ガス排出削減目標というところはやはり重要であり、また市民の注目も高いところだと思いますので、この辺りについてのやっぱり数値目標がないと、結局、イメージだと、どのぐらいどう頑張ればいいのかという目標、そういったところが見えないのも困るんですけどなと思うので、具体的な数字を追うのではなくて、市として効果的な実効的な計画にするというところの具体化というところを、今お考えのところを出していただければと思います。

以上です。

池上会長  
高野係長

ありがとうございます。

最初のコンサルというところの御質問につきましては、あくまで事務局側の支援というような形なので、審議会の中にコンサルの方が入って一緒に討論するというよりも、気候市民会議の運営や、計画を作成するときもそうなんですけれども、事務局だけだと運営が難しいというところもあるので、運営支援をしていただくという意味でコンサルが環境審議会の市側の運営支援に入るというようなイメージでございます。ただ、あくまで審議会自体は、いつもと同じように皆様で御審議いただくというところには変わりはありません。

2点目の数値目標というところなんですけれども、あくまで数字は国の目標に合わせてやりたいということで話はしたところではあるんですけれども、和田委員からもお話がありました35年の目標だったり、そういったところも合わせて、数字の目標を全く出さないというわけではなく、高みを目指してやっていきますというところはやっていきたいと。具体的な政策を何かというところの、実効策みたいなということでも御質問があったところなんですけれども、こちらも今までやってきた各重点施策がございますので、そういったものプラス、何か新しく、例えば資料9ページの中でも、市が実施している取組内容の精査というところで、新規施策等について御意見が出てくるかなと思いますので、そういったものを具体化できればいいかなとは考えているところです。

以上です。

池上会長  
田頭委員

田頭委員、お願いします。

ありがとうございました。その審議会におけるコンサルの役割というのは分かったんですけれども、気候市民会議のほうには、この環境審議会でも、結局、会議の運営をリードしていくファシリテーターの役割が重要じゃないかという意見が何人かの方から出たと思います。追加の質問でコンサルの方がその部分も担われるのかどうかということ伺います。

高野係長

ファシリテーターについて、職員だけではなかなかできない部分もありますので、前からここでお諮りしていたとおり20人から30人ぐらいと来年度の気候市民会議では想定してございますので、それぞ

れに例えば市の職員がついてしまうとそれで終わってしまう形になってしまうので、コンサルにはファシリテーターの役割も含めて考えているところです。

以上です。

田頭委員 分かりました。ありがとうございます。

池上会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。中里委員。

中里委員 気候市民会議にどのぐらい応募があったのかによると思うんですけども、このファシリテーター的な役割を果たす方というのは何人ぐらい、何人に対してお一人ぐらいを想定されていて、そして、どのような立場の方が担われるのか、お分かりでしたら教えてください。

高野係長 ファシリテーターの人数等については、これから検討してまいります。

以上です。

中里委員 市民会議の応募者、全体が何人かは決まりそうなんでしょうか。

高野係長 市民会議は、8月22日に発送いたしまして、9月10日を第1の締切りにしたところなんですけれども、200人に応募しまして、今、意思を表示していただいているのが7名です。なので、目標としていた5%から10%、10人から20人ぐらいを想定したところではあったんですけども、想定よりも人数自体は少なかったのかなと考えております。

この7人が絶対全員やってくれるかということ、多分、途中でちょっと違うかなと思ってやめてしまう方も中にはいらっしゃるかなとも思っておりますので、そこは先週の市議会の建設環境委員会でも報告させていただいたんですけども、その中で、せっかく200人に送って7人で、まだ考えている方もいらっしゃると思うので、何かリマインドみたいなことができるようであればしたほうがいいんじゃないかというような御意見もありましたし、これから、それプラス、プレ気候市民会議を実施したいというところもあるので、もう少し人数が多くできて、今年度、人数が集まれるような形は今、検討したいなと思っています。

以上です。

池上会長           ありがとうございます。

橋本委員。

橋本委員           来年のスケジュール、それぞれナンバー1から7まで、それぞれに組み込まれているんですけども、これの有機的な結合というんですか、その項目がどこに行って、どうなっつながっていくのかというような、横はあるけど縦はないというような、そういうところはなかなか書きづらいんでしょうかね。そういうふうなのが分かったら、この結果がどこで反映されていくとか、そういうことが分かるのかなと、感想として思いました。

高野係長           取りあえず横軸だけ、今、並べているので、有機的に全てがつながっているところではあるので、そこをもう少し分かりやすくできる形であれば、ちょっと検討させていただきます。

橋本委員           それぞれ最終報告というのが2月にあるわけですけども、この最終報告というのが次年度に反映されていくという、大きく言えばそういうことなんでしょうけれども、ただ、年度内の中でのやり取りというか、そういうのも少しあったほうがいいかなと思いました。

高野係長           分かりました。ありがとうございます。

池上会長           ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。高田委員。

高田委員           温室効果ガスの削減目標の26%なんですけど、ちょっと勉強不足の質問かもしれませんが、この内訳といいますか、どういった施策で26%まで積み上げていくのかというのは持ってはいないというふうに理解しているのかどうかということと、それと、新たな目標については、例えば西東京市のロードマップのように、この施策とこの施策で、何%まで言えるかどうか分かりませんが、こういうものを組み合わせて積み上げて目標を達成するんだというような、新たな目標については、そういった内訳を考えるということをお考えかどうかというのを質問させていただきます。

高野係長           26%の内訳については、目標が第2次の計画の中には書いてあります。こちら、第2次の計画の中でも、削減目標の将来推計や、目標数値がございまして、手法についてというものを記載している箇所もあります。2013年度と比較していくら削減が見込まれますという

ところ、コンサルさんと一緒に、こちらの計画策定のときに削減見込みについては計算させていただいて、結局、26%削減という形での記載にはなっております。最終的に、いろいろと計算がありまして、26%削減と記載しております。

それに対して、これから46%、さらに高みを目指してということになるんですけども、ここまで細かく計算するという形になってしまうと、先ほど説明したとおり、また数値の目標、数値自体を検討し直していく形になってしまいますので、そういったことはせずに、施策の追加等について御意見を聞きながら検討してまいりたいと考えております。以上です。

高田委員 分かりました。どの部門でどれぐらい削るかということではなくて、どういう施策でどれぐらい削ることを目指すかということをも市民の方に明示できれば、よりいい計画になるのではないかなと思いました。ありがとうございました。

高野係長 ありがとうございます。

池上会長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

今、高田委員からありましたが、もともと26%という目標があったときに、国の目標も26%でした。それが今46%に上がっています。その46%には内訳があって、例えば発電部門でこのぐらい削減して、産業部門ではこのぐらい削減してと、部門ごとの想定を積み上げた結果になっています。そういう国の排出量の構成の中での46%と、小金井市の構成の中での46%は同じように考えてよいのかというところはすごく大事で、国の46%の中にも家庭部門はこのぐらい減らしますという目標値が立っている。小金井市のように家庭部門が多い地域では、それを踏まえた上で立てていくというのがすごく大事かなと思うんですけども、単に国の目標が46%だから46%に合わせにしようというのは、決して正しいやり方ではないかなと思っています。

先ほど高田委員からありましたけれども、もともとのこの26%も積み上げて、小金井市の場合はしっかり積み上げて、これがこうなるから何%減らせる、これをするとこれだけ減らせるというふうに積み

上げ型でやっていますので、例えば省エネチャレンジで減らしますというの、その省エネチャレンジに参加した人だけの分が加味されるという形になる。もしかしたら、その省エネチャレンジの影響がほかの家庭にも広がっていくと、本当はもっと効果があるのかもしれないですけれども、やった人だけの分で計算せざるを得ないところが、目標値のすごく苦しいところだと思います。だから、そういう意味では、ほかの自治体は何%だ、50%だと言っているところがしっかり積み上げてやっているのかどうかというところはすごく大事なとは思いますが。いずれにしても、小金井市は2050年ゼロカーボンシティの宣言をしているわけなので、国に準じて、国に後れを取らない、国全体が進む方向に後れを取らないようにしっかりとやっていく必要があるところはあるので、それはそれでいいかなと思います。

そういう意味で、その46%というところは、中身をしっかりと見た上での小金井市の数字ということが重要かもしれません。単に46%に合わせるのか、何となくで50%というのは、小金井市がこれまでやってきた積み上げ型でそれをやろうとするとすごく苦しい。目標としてゼロカーボンシティも目指しますよという、目指しますと言うこと自体は何%でも言えなくはない、宣言すること自体はできるかもしれない。それを根拠として積み上げるとなるとすごく無理が発生するし、小金井市としてできないことというのはすごくいっぱいあって、世の中全体に再エネが普及してくるのかどうかに影響を受けてしまう。そういうところがすごく難しいところ、小金井市で根拠をもって数字を出すところの難しさかなと認識しています。

それで、これは来年の方向性がどうなるかというのは、基本的に分かりやすい形で市民に見せていくのはすごくいいと思いますし、例えば四十何%減らしますよと言われても、じゃ、我々一般家庭の一般市民は何をしたらいいのか、結局分からなかったらあまり意味がないし。逆に、何かやらなければいけないことを明確にやって、それをやったときに、そのやっている状況というのが、成果として見える形というものすごく大事なと思います。

今日の資料だと資料2の7ページ一番右側の右下に、「そのほかの主な取り組みの目標値」というところです。例えば高効率給湯器（ヒー



トポンプ)、ちょっと数字まで見えないですけども、こういうのが何%の普及状況から何%に、こういう自治体独自の普及状況が目指す方向に向かって進んでいますよというのが数字で見えると、私は入れた、まだうちは入れていない、太陽光発電とか断熱もそうですし、小金井市が取り組んでいる取組の市内の状況というのが数字で見えると、全体のCO<sub>2</sub>何%削減ということよりも、小金井市民の取組みの方向性が明確になって、それが進んでいる度合いが見えてというところがすごくいいんじゃないかなと。そういう意味では、ほかの自治体のものは参考になるなど。

これを自治体だけでどうやって調査するかというのは、また別の課題があるかもしれないし、電気自動車の購入率は自治体だけの導入率をどうやって調べられるのか、難しいかもしれない。エコドライブの実践率、こういうのもアンケートで取るしかないかもしれない、先ほどのものも5年に1度でいいのかどうかというのもちょっとあるかと思えますけれども、こういう実際の自治体の具体的な取組の進み具合というのが見えて、そこに対して目標値があって、それに対して補助金がついている、あるいはPR、補助するのでこういうのを目指しましょうという情報提供を含めてであると、国全体の普及状況と比べて、小金井市は例えば電気自動車がほかの地域よりも多いんですのように、他の地域よりも進んでいることがどこかに見えてくると、市としても市民としても、達成感、自分たちは取り組んでいるんだということが見えていいんじゃないかなと思います。

そういう意味で、全体の数字というのは、あくまでもゼロカーボンシティと同じレベルでの目標値としては大事で、方向性としては大事だけれども、積み上げるという意味では、CO<sub>2</sub>で積み上げてもなかなか見えてこないの、こういう具体的な取組を指標として提示できるとすごくいいんじゃないかなと思います。そういうのも含めて、来年の気候市民会議で市民の皆さんの意見が聞けたら面白いと思っています。私からは以上です。

ほかいかがでしょうか。

高野係長

会長から御説明があった、市での取組というところなんです、この第2次の計画をつくった際の市の独自での取組というのが、26%

のうちの0.6%相当分というところが算出されておまして、この審議会の中でも会長がよくおっしゃっている、市が実際にできる取組はなかなか数字として多くないから、それでも26%難しいんだよねというようなお話はずっといただいております。そのところで、国が出した数字と東京都が出した数字で、プラス、今、市ができる取組としまして、先ほど御紹介ありました省エネチャレンジ事業の実施や、特に近年、力を入れています住宅用新エネルギーの補助制度を充実しているところです。

こういった市の独自の取組効果として挙げているものに、加速化させるもの、新規で何かあったほうがいいんじゃないかというものがあるれば、こちらに記載をしてという形にはなるとは思います。

補足では以上です。

池上会長

ありがとうございます。

そういう意味では、市がお金を出して取り組んだところだけだとどうしても少なくなってしまうので、市民が自分たちでお金を出してLEDに替えましたとか太陽光発電を入れました、いろいろな対策、それぞれがやっていること自体が見えるといいかなと思います。それこそが環境教育じゃないですけど、環境教育に取り組んで情報発信をして、市民の皆さんの意識が変わって、自ら取り組んで変わりましたという効果を、そういう普及状況が何か見えるといいんじゃないか。そういう意味で、CO<sub>2</sub>という数字はすごく苦しいなというのをずっと感じてきているので、ほかの自治体の、長野県は寒い地域だったりするからバイオマスの暖房ですとか、こういう特徴があったりするのもありますけれども、そういう小金井市らしさを載せるのももしかしたらあるかもしれないし、太陽光発電とかLED化の基本的なところ、こういうところの普及状況や、まだまだやれるところがありますので、こういう普及状況、LED化率がどのぐらいになっているというところも見えてくると、必要な取組が分かるんじゃないか。LED化が進んでいるんだ、みんな進んでいるのか、うちはまだやっていないなというふうにも感じるすることができますから、普及率が増えてくるということと、お知らせするというのもすごく大事だと思います。そういう具体的なお話のところにも目が行くようになるといいかなと思いました。

高田委員。

高田委員　　今、会長がおっしゃったことに全く賛成ですけれども、削減率、削減量に最終的な数字を集約するのではなくて、それはそれとして市民共有の目標としながら、市民が実感できる別の指標というのをやっぱり独自に考えたほうがいいのではないかなと思う。それは東京都や国の施策とは全く整合が取れないというものでも構いませんので、むしろ市民の支持を得て、最終的には削減量につながっていくのが本当は望ましいんですけども、さっき会長がおっしゃったように難しい面、限界がありますので、それとは別の指標、実感できる指標というものを考えていくのは、大きな意味があると思います。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。田頭委員。

田頭委員　　今のお話を伺っていて、前回もそういう発言というか意見も出したんですが、やはり環境教育の一環として、この主要施策兼市民ができることみたいな、市ができることみたいな、そういう学習会的な取組がこのスケジュールの中にもなかったもので、そういったことをこの審議会から提案していくとか、会長のお話とか、有識者の皆さんのお話がすごく勉強になるので、もったいないなと思うんですよね。そういう観点からも、ぜひ学習会をやったらどうかと思います。気候市民会議をやりますよということのアピールも兼ねて、みんなで一緒に取り組みませんかということも含めて、どうなんでしょう、検討できないですかね。学習会を、環境学習の一環でも何でもいいんですけども、できる形で、実際に自分たちが何ができるのかにつながるような趣旨のものがあつたらいいのかなと思いました。

以上です。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。椿委員。

椿副会長　　今、皆さんがおっしゃってくださった議論はとても大事ですし、これまでもそういった御指摘、御意見、何度も出ていたかと思います。先ほど議論になったロードマップ、概要版、特に一般の方に見ただけのことだと思おうので、小金井市という住宅が多くて、今の生活者目線で何ができるかということにもつながるんだと思うんです

けど、ベッドタウンとしての地域性というのがまず背景にあって、なので余計、ゼロカーボンシティを目指すためには、私たち住民が一步は小さくてもみんなでやるのがとても意義を持つんだという、地域性みたいな説明をこういう概要版の中にちょっと入れていただくと、小金井市ならではのというところにつながるのかなと改めて思いました。

以上です。

池上会長  
高野係長

ありがとうございます。

田頭委員と椿副会長からいただきました。環境教育の一環として学習会を実施というお話もいただいているところではあるんですけども、気候市民会議実施のスケジュールもございますので、こちらは検討させていただければというところでお答えさせていただきます。椿委員からもありました地域性の説明があれば、小金井らしさみたいなものが必ずあると思いますので、そういったところは入れられるようであれば検討していきたいと思えます。ありがとうございます。

池上会長

ありがとうございました。

ほかはいかがでしょうか。よろしいですかね。

それでは、次の議題に移りたいと思えます。ありがとうございます。続いて、(2)の(仮称)小金井市気候市民会議について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

高野係長

資料3を御覧ください。環境審議会でも何度も御議論いただきました気候市民会議に向けた、令和6年度に市で行う環境啓発事業への参加者募集ということでの案内を発送させていただきました。前回までの審議会でも数々御意見をいただきまして、反映できるところについては反映させていただきました。

こちらは市のホームページでも公開している情報になるので、特に詳しい説明は省略します。

資料にありますとおり、1枚目がチラシ、2枚目以降が気候市民会議の案内を受け取られた皆様へという御案内になっておりまして、審議会でも御審議していただいた内容等でございますので、説明については割愛させていただきます。

これから今年度、オリエンテーション、プレ気候市民会議を実施し

て、冒頭の資料1でも説明した気候市民会議、来年度3回開催に向けて進めていきたいと考えているところです。無作為で200人にお送りし、回答があったのが7人ということで、あまり数的には多くはないのですが、この人数だけで行うというのではなく、こういった事業に向けて無作為抽出を実施したのが今回市として初めてな事例でもございましたので、今回の返答率を見て、来年度も無作為抽出を実施予定で、次回は規模を大きくして無作為抽出を実施したいと考えているところです。

私のほうからは以上です。

池上会長

ありがとうございます。

ただいまの説明について何か御意見、御質問等ありましたらお願いいたします。田頭委員。

田頭委員

7人の方の年代とか性別の内訳をお伺いしておきたいと思うんですけども、それから、環境フォーラムでプレ気候市民会議を開催してみようということは十分意味があると思うんですが、このプレのときにはこういった広報というか周知、また参加の呼びかけの中身、こういった方たちとタグを組むのか、また、その作り込みのほうも、恐らく環境フォーラムですから、まずコンサルが入るのはそうなんですけど、環境市民会議とも連携してやっていくのかなと思いますので、そういった市民団体との連携についてはどのようにお考えなのか、現時点での状況を教えてください。

高野係長

年代、性別等については、16歳からの方にお送りしておりまして、30代から60代までの方にいただいております、性別はおおむね半々程度でございます。

プレ気候市民会議の周知につきましては、環境フォーラムで大きく周知したいと考えておりますので、その中で周知できればと思っております。作り込み等についてはこれから検討するというところと、あと、環境団体、環境市民会議と、昨年度は環境フォーラムの中で、ゼロエミ小金井という団体が実際に車座トークのような形で参加していただいておりますので、特に環境市民会議の皆様とは定期的に打合せを実施しておりますので、この中でまたお話ができればなどは思っているところです。

以上です。

田頭委員

ありがとうございます。

池上会長

ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。椿委員、お願いします。

椿副会長

現時点で7名ということで、まだ応募がこれからも来る可能性はあるか思うのですが、20名想定でいいますと、ちょっと少ないので、例えば、今後開催予定の環境啓発事業やフィールドワークに参加された方々に追加で応募してみませんかとお声がけをしていくこともありかと思ったのですが、いかがでしょうか。あるいは、これは一般の方に向けの取組ですが、応募された方が次年度、本当に気候市民会議に全員参加されるかは分からないという、高野さんがおっしゃっていたとおりでと思うので、環境活動に既に関わっておられる組織の方々、メンバーの方々にもお声がけをし、もちろん御希望があればですが、その方々を通して、情報を広めてもらうこともありかと思ったのですが、いかがでしょうか。

高野係長

気候市民会議につきましては、今まで環境問題等に興味関心があまりなかったような方、興味関心はあるけれども一步を踏み出せなかったような方を中心に組織できればと考えております。ですので、できる限り、無作為抽出で選ばれた方を想定してございまして、フィールドワーク等での環境啓発事業に参加された方にお声がけということは、今のところは検討しておりません。

実際に環境団体さんのほうにお声がけをとということも、今お話の中でありましたが、やはり、今まで何も環境問題等に興味関心がない方々の環境意識を引き上げたいという思いがございまして、今のところは無作為でのということ想定しているところです。

今年度、もう1回やるのかどうかというところと、来年度は人数を少し多くお送りしたいというところもありますので、そういった方たちの参加を促したいというのが最終的には考えているところです。環境団体に所属されている方等にお声がけをすれば人数は集まるのかなと思うんですけども、それとはまた別の形での組織がいいのではないかと考えております。

以上です。

椿副会長           ありがとうございます。おっしゃっている趣旨や狙いはよく分かります。そうした狙いで、まさに気候市民会議を開くということなんです。例えば野川のフィールドワークに参加される方々の多くは、自然や生き物に関心を持っている可能性があります。地球環境全体やゼロカーボンシティに向け、多様な体験や経験を踏まえた御意見が出てくる可能性もあると思います。つまり、環境といっても、いろんな側面があり、関心のある部分とそんなにない部分とがあると思い、一つの意見として申し上げました。

池上会長           高木委員。

高木委員           7名の募集なので、気候市民会議は最大で7名プラス何名になるのでしょうか。

高野係長           20人から30人を想定しております、今年度応募した方だけではなく、来年度も無作為を実施する予定ですので、今回の返送率等を鑑みて、来年度の無作為抽出は人数を多くしたいと考えています。

高木委員           その場合、誰かを入れて囲むことはなくて、いわゆる一般の方々だけで構成されて会議をまとめる、ファシリテーターだけ入ってまとめる。プロがそっちに誘導して、みんながくっついていっちゃうということになるんですか。それとも、本当にその20人だけで運営する。

高野係長           参加者だけではないです。参加者だけだと自分たちで何ができるのか不安になってしまうと思います。

高木委員           もちろんそうなんですけど、そうなのは分かっているんですけど、誰がというか、周りからは入らずに本当にファシリテーターだけが入って進めていくという形でしょうか。

高野係長           はい。そういう想定をしています。

高木委員           分かりました。

池上会長           ありがとうございます。

                          ほかいかがでしょうか。よろしいですか。高田委員。

高田委員           この市民会議のミッションなんですけれども、僕のイメージでは、アイデアを出してもらって、それから提言をしてもらう。多分、ほかの自治体の気候市民会議、あるいは日本以外の市民会議でもそういった活動をされていると思うんですけれども、話し合ってもらって場という表現が結構出ていまして、提言をもらうというのがどこか、Q&Aか

何かにあったと思うんですけれども、話し合ってもらう場というところと何か曖昧な感じがするのですが、アイデアを出し、提言をいただく場というところと重たくなっちゃうんじゃないでしょうか。ミッションは明確にしたほうがいいかなという思いと、明確にし過ぎると市民の方はハードルを感じてしまう部分があるのかなというところなんですけれども、いかがでしょうか。

例えば1ページ目、「話し合う場である」市民会議と書いているんですね。2ページ目の上にも、「市民目線で話し合っている場」というのがあります。それから、スライドでいう5ページにも、「市民目線で話し合っている場」というふうになっているんですけれども、何かミッションが曖昧な気がしますけれども、どうでしょうか。

高野係長           これから検討させていただきます。

高田委員           分かりました。

高野係長           会議について中身の詳細は、また検討していきたいので、御意見を踏まえて、もう少し明確にできるような形であればしたいと思います。ありがとうございます。

高田委員           話し合っていてアイデアを提案してもらおうとかという、ちょっと柔らかい言い方ができればいいのかなと思います。

以上です。

池上会長           ありがとうございます。

具体的なところは9ページですかね、スケジュールの中に具体的に内容が書かれていて、「会議は、コーディネーターが話をリードし、フォロー、アドバイスを受けられる予定です」。でも、1年前のものは、どちらかというと環境啓発事業に参加してみませんかというところでもうちょっと多く集まるかなというのがありますけれども。気候市民会議のほうは、会議体の少しハードルが高いのではないのでしょうか。

高田委員           全く的外れな意見かもしれませんが、小金井市出身の著名人、有名人、文化人とかにメッセージをもらおうとかということは、この市民会議に向けたメッセージじゃなくても、これから小金井市がゼロカーボンシティに向け取り組んでいく上で、そうした方のメッセージをもらって、あまり関心のない層に届けようという趣旨がありますので、そういうところに活かしていくというようなアイデアもありかなと思



うんですけれども、これはお答えいただかなくてもいいんですけれども、何かそういったアイデアがあるのかなと思いました。

高野係長 分かりました。確かにメッセージをいただくのであれば、広告塔と  
いいですか、市の観光大使さんがいらっしゃいますので、もしそうい  
った方からメッセージがあれば、確かに高田委員がおっしゃるとおり、  
いろいろな方が、この方が言っているんだというのを見てくれるかな  
と思いますので、すごくいい御意見だと思います。ありがとうございます。

高田委員 中央線沿線というのは結構、音楽好きのまちが多いので、ミュージ  
シャンとか、すごくいいかなと思いました。

高野係長 そうですね。観光大使もミュージシャンの方がいらっしゃいますの  
で。

池上会長 ほかいかがでしょうか。和田委員、お願いします。

和田委員 資料3の18ページ目で、ちょっと恥ずかしながら、私、今さら小  
金井市の温室効果ガスの排出量の推移とかを認識したんですけれども、  
これを見させていただくと、全体が30万トンあって、多くがやっぱ  
り民生の家庭部門なんですね。非常に難しいなと思いつながら、あと、  
次に民生の業務部門ということで、これは学校とか大学とかそういつ  
たところですよ。なので、ここが全体の7割以上を占めているとい  
うところかと思つしますので、主に例えば電力使用というところのター  
ゲットになってくるのかなと思いました。

なので、気候市民会議の皆様にもミッションとして、できるだけ、こ  
れが問題なんだよというところをクリアに伝えてあげたほうが議論が  
拡散なくて済むと思います。なので、ターゲットはやっぱりこの民  
生部門、御家庭の部門というところをどうやって減らすかみたいな、  
その辺を議題として上げてあげるといいのかなと思いました。

以上です。

高野係長 和田委員、ありがとうございます。そのとおり、小金井市は民生部  
門がかなり大半を占めておりまして、今回、資料からは除いたんです  
けれども、多摩地区と比較した場、小金井市の民生部門の方がかなり  
割合が多く、家庭でできる努力を皆様一人一人が、小さいことかもし  
れないけれども頑張つただけだと、その分、ぐつと減るんじゃないな

いかというところを訴えていきたいなと考えております。企業があまり多くないという市域の特性はあるんですけども、そういったところを皆様に知っていただいて、自分たちが悪いわけじゃないけれども、もちろん生活していく中でどうしても、この酷暑の中でエアコンを使わないとかそういったことは言えないけれども、一人一人が少しでも努力してやっていくことが大事だと思いますので、そういったところは気候市民会議で訴えるテーマの1つとしていきたいなとは思っております。ありがとうございます。

和田委員 ありがとうございます。先ほどの高田委員からも出た、できるだけ見えるような指標という観点でいくと、例えば、市民1人当たりの排出量が実際、2013年からどうなっているのか。増えていても全然いいと思うんですが、危機感をしっかり持ってもらうということ、1人当たりの排出量、あるいは、こういうセクターが非常に似通っているほかの市というんですか、工場もないし産業が少ないといったほかの市と比べるとどういう指標になっているのかだとか、いろいろ検討してもらうための材料をできるだけ与えてあげるといいのかなと思えました。もちろんそこは私も協力しますので、よろしくお願いします。

高野係長 ありがとうございます。

池上会長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。近藤委員、いかがでしょうか。

近藤委員 先ほどの議題1でも橋本委員から御意見が出ましたけれども、資料1の中の気候市民会議のこの部分が、ナンバー1の審議会のここに報告されるという、縦の棒が入れば分かりやすいのかなと思います。先ほど高田委員からもお話があったように、最終的にはどこどこに提言をしていただきますみたいな棒が入ると、より具体化して分かりやすいのかなと思います。

以上です。

高野係長 分かりました。ありがとうございます。

高田委員 コメントで、すみません。先ほど民生部門が多いというお話で、それが小金井市の特徴だということなんですけれども、民生部門が多いということは、つまり気候変動の影響を受ける人の割合が高いということなんです。影響をいかに、適応というふうにも言うのかもしれ

ないんですけど、影響をいかに減らしていくか、これは排出削減とは別の次元かもしれませんが同時にやらなければいけないことで、影響が少なくなったねという実感も市民にとってはすごく大事なと思うんですけども、この排出量の数字には出てこないのかもしれませんが、そういう視点で、先ほども会長がおっしゃったような指標とか、そういったものをぜひ考えていければいいのかなと、そういう視点に立つべきだなと思いました。

中里委員　　今の高田委員のお話に関連して、やはり削減と緑の創出を併せて両輪でいきたいと、私、常々思っております、そのためには、私有地は無理なんでしょうけれども、やはり緑で、木を植えていただきたい。それで日陰をつくれば、自然とだんだんと温室効果も抑えられると思います。

池上会長　　ありがとうございます。

ちょっと1件、前回の地球温暖化対策地域推進計画の中には、緩和策だけじゃなくて適応策も一緒に併せて入っていて、ただ、緩和策はCO<sub>2</sub>の削減目標みたいな形で数値が出ていますけれども、適応策はこういうことをやりますよというのが並んでいて数値目標は設定しにくかったように記憶しています。

駅前ですかね、ミストが出る、そういう熱中症対策みたいなものは適応策の1つとして入っておりますが、数値目標は難しい。熱中症の患者数がどう変化しているか。小金井市だけで閉じた集計ができるのかどうかとか、なかなか難しいところはあるかもしれないですけども。一番実感しやすいのは、やっぱり熱中症対策、夏の暑さ対策が一番感じやすいと思います。

高野係長　　ありがとうございます。この審議会の中でも、クーリングシェルターという形で実施を今年度から始めましたということも報告させていただいております、そういった適応策のような形でも事業自体は実施しているところもありますので、確かにおっしゃるとおり、もう少し適応策についても何かあればという形では検討したいと思います。ありがとうございます。

高田委員　　例えば、市内の病院にアンケートを御協力いただいて、熱中症の患者だけじゃなくて、最近、気候変動影響死みたいな、そういう気候変

動が原因となって病になったり亡くなったりというケースが多いという報告が多くなっているようで、メンタルなことも含めて、それから持病を持っている人が悪化しやすいとか、ストレスが悪化しやすいということもあって、例えば、最近そういうような傾向があるとか、そういう人が散見されるとかということをして市内の病院に、病院もたくさんあるんでしょうけれども、アンケートを取るというのも1つの適応を把握する手段かなと思いました。コメントです。

中里委員       やはり健康と兼ね合わせての数値がもし出るならば、とてもそれは訴えかけるものが大きいと感じます。難しいと思いますけれども、確かに、今、熱中症等が多いですし、テレビなどではかなり目に見えて大きくなっていて、死者も熱中症という診断だけでなく、臓器が徐々に循環器系がやられて死に至るということが、この一、二年とか、とても多くなってきたということで、明らかにそれは真夏の暑さの長さだということも言われてもいますので、その辺、アプローチしていただけるとありがたいと思います。

柿崎部長       小金井市内の市民の方々が、全員が市内の病院に行っているというわけではないので、市外の病院にまで手を広げて、どういったアンケートを取ることによって、その症状それぞれに環境がどう影響するかというのを出すというのは、多分難しいと思います。

高田委員       市民の方が来ているということにあまりこだわらずに、市内の病院の診察されている専門家の所見を聞くということも、例えば、ここ数年、やっぱり夏場の暑さが非常に激しいですので、数年単位で所見の変化、あるいはいろいろな知見がこれから出されていくと、病院の先生方もそういった目で患者を診るようになって所見が変わっていくというのもあるので、そういったことを追跡するのは、ほかの自治体はあまりやっていないと思うので、民生部門が多い小金井市としての特性が出るのかなと。今後の課題として考えていただければよろしいかと思えます。

池上会長       ありがとうございます。

網羅的じゃなくても、積極的に協力してくださる先生がいらっしゃれば、そこに相談してみるというのはあるかもしれない。

椿副会長       今の件でよろしいですか。私、今、関わっているのが附属なので、

いわゆる公立小学校と違うのですが、学校であまりの暑さで、今日は外で運動させない、屋外プールも使わない、熱中症で保健室に来た子どもが何人いるとの統計は取っていると思います。小金井市の公立小学校、中学校で取りまとめているかは分からないのですが、子どもたちの猛暑に関わる実情や、学校教育がどんな影響を受けているのかは1つの客観的実態として出せる可能性があるのではと思いました。

柿崎部長　　この間の議会で出ていた話でいくと、例えば今年度とか、その前の年とかで、各学校でプールの授業を暑さのためにどれだけできなかったかという数字は出ていました。そういう形であれば、出ないということはないのかなと思います。

椿副会長　　子どもたちがどういう影響を受けているのかという、客観的な実態を示すものにはなるのかなと思いました。ありがとうございます。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

高野係長　　もし御発言がない委員さんがいらっしゃったら、皆様からの御意見をいただきたいというのが。

池上会長　　土屋委員、何か。

土屋委員　　特にないです。

池上会長　　ありがとうございます。

橋本委員　　やはり、この市民会議の最終的なアウトプットというのが何となくぼんやりしているというのか、この年度スケジュールでは、最終的に報告会を開いて、何ていうんですか、盛り上がりましょうみたいなそういう雰囲気を書かれているんですけども、年間スケジュールの中では、市への提言を取りまとめるとか、どの辺のところまでどのようにやるのかという、そこがちょっと見づらいかなと、私自身は思いました。

高野係長　　ありがとうございます。

橋本委員　　何回も、多分、これをまとめるのに、そういうところの意見は出たと思うんですけども、そういうところをもうちょっとクリアにしたらよろしいんじゃないかなと思いました。

池上会長　　ありがとうございます。

これからもまだ募集することがあるかと思えます。よろしくお願いいたします。

池上会長       ほかによろしければ、次の議題に移りたいと思います。ありがとうございました。それでは、続いて、(3)の令和5年度環境報告書(案)について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

高野係長       今回、資料5としまして、環境報告書(案)、令和5年度版というものを作成しております。冒頭説明しましたとおり、資料4の環境保全実施計画につきましてはデータのみの配信とさせていただきます。

本日だけで全てを見ていただくということは、金曜日に皆様にデータでお送りしているの、なかなか見ていただく時間もなくて恐縮でございましたというところと、今日だけで御審議いただくところが難しいかと思えますので、皆様にメールでもお送りしましたとおり、意見等記入様式というものを審議会の皆様にはお配りしております。こちらに、意見等ございましたら、ページ数と御質問欄に書いていただければと思っております。昨年度もそうだったんですけども、なかなか全てを反映することができないような状況ではあるのかなとは思いますが、反映できるところについては反映したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

池上会長       ありがとうございます。

これは最終版ではまだなくてということ。

高野係長       そうです。案でございます。

ただ、環境審議会が次回1月以降になってしまうので、審議会に再度、報告の完成版をお諮りするというよりは、10月4日に期日をつけておりますので、こちらのいただいた意見を基に、審議会というよりも皆様にまたデータで御確認いただいて最終版にできればと考えております。

池上会長       分かりました。具体的なところは、意見等記入様式のほうに記入いただいで。電子版か何か。

高野係長       そうですね。電子版でできればと考えております。

池上会長       メールで来て、エクセルか何かで記入して質問するという形に。

高野係長       はい。皆様に一応、このデータについては、金曜日にデータでお送

りしておりますので、ここで見ていただいて、エクセル、こちらの意見等記入様式についても一緒にお送りしておりますので、そちらで御確認いただければと思います。

池上会長       それでは、内容以外のことで、今、何か聞いておきたいことがあるならお願いします。

高木委員       報告書の件で、いつも聞いているかもしれないのですが、評価を、実施状況とその効果について評価していただいていると思うんですけど、これは最終的に小金井市としての判断になっている、それはどういうステップを踏んで、Aという評価とかCという評価をしていると思えばいいんですか。

高野係長       基本的には自己評価です。

高木委員       自己評価というのは各部、担当部署がしているということですね。

高野係長       各担当部署が評価したものを、庁内の組織である環境基本計画推進本部というところにお諮りして、こちらで、それで妥当だということころで判断していただいております。

高木委員       組織として、取っているということですか。

高野係長       そこで見てもらって、環境審議会で最終的に見ていただくところにはなります。

高木委員       AでAというのはすごくいいことかなと思うんですけど、例えば、BのBみたいなものところに、何かをするのに予算を取らなければならぬみたいな、客観的な評価みたいなものがある。それは当事者として、これはできない、今の年度ではできないとかだったら分かるところもあるんですけど、若干、自分たちの責任以外のところでできないみたいな表記のところはどう考えていいのかなというのを。

                  例えば、77ページの真ん中辺にある721番などは、「民間から土地を借用して運営していることが多いことから、恒久的に使用できる土地の確保が必要」という事実は分かるんですけど、これと実施についてというのが、だったらほとんど実施できないということなのかなとか、施策として、そもそも成り立っていないのかなというのがちょっとあったので、そういうことは、今回は計画しているものだからしよがないと思いますけど、課題だなというのはすごく強く思いました。

高野係長 分かりました。ありがとうございます。

池上会長 ありがとうございます。

この計画したときはできていたけれども、途中でできなくなったという。

高木委員 かもしれないですね。

高野係長 この環境保全実施計画も見直していかないと、できない策のものを続けても仕方ないところもあるので。

高木委員 そうですよ。

高野係長 というところも含めて見ていただければと思います。ここについては妥当性がそもそもないんじゃないかというのであれば、この計画自体、中身を変えてという形になっていきますので。

高木委員 そうですね。思い切って廃止と書いてある部分もあったので、今みたいな書き方だと、今後、廃止の予定とか継続するとか、そんな感じかもしれないですね。分かりました。

高野係長 ありがとうございます。

池上会長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。よろしいですか。

高田委員 この報告書というのは、最終的に議会に提出されるんですか。

高野係長 しないです。議会には提出しませんが、市議会議員には配付します。

池上会長 ホームページで公開する。

高野係長 そうですね。ホームページで公開します。

池上会長 ほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、次の議題に行きたいと思いますが、(4)のその他ですが、何かございますでしょうか。

高野係長 事務局からは特にございません。

池上会長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

それでは、時間が押していて申し訳ないんですけども、議題は以上にして、次、報告事項に移りたいと思います。まず、事務局のほうから説明をお願いいたします。

荻原専任主査 本日、令和5年度に環境政策課のほうで行いました調査測定の結果



書を6種類、机の上に配付させていただいております。1から4については、当審議会のほうでもいつも簡単に説明させてもらっているところなんですけれども、本日につきましては時間の都合で割愛させていただきますので、何か御意見等ございましたら、意見提案シートのほうで送っていただければと思います。5番、6番につきましては、この中身については、環境政策課でもう一つ、地下水保全会議という地下水の専門家会議があるんですけれども、そちらのほうで中身については御審議いただいているところでございます。ただ、今回、うちのほうで行っている調査測定ということで、資料のほうだけ報告させていただくということになっておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

池上会長 ありがとうございます。

議事次第の(1)は各種調査報告書についてということ。

高野係長 申し訳ないです。環境啓発事業についてというふうに書いてしまったんですけれども、私が間違っておりました。各種報告書についての報告でございましたので、申し訳ございません。環境啓発事業について今回報告は特にございませので、次第が間違っておりました。

池上会長 ありがとうございます。

それでは、具体的な質問等ありましたらコメントシートにということで、次に進みたいと思います。

続いて、次回審議会の日程について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

高野係長 次回、第4回の環境審議会の日程についてです。今期は4回のうち、今回を含めて3回を既に開催させていただいておまして、次回が今年度の最後になるのですが、おおむね1月以降を予定してございます。また、皆様宛てに別途、日程調整させていただきますので、御協力よろしく願いいたします。

以上です。

池上会長 ありがとうございます。

それでは、今のも含めまして、全体を通して何か御意見等ございましたら御発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。よろし

いですか。ありがとうございました。

それでは、本日の議事は全て終わりにになりましたので、以上をもちまして、令和6年度第3回小金井市環境審議会を閉会いたします。ありがとうございました。

— 了 —